2．　評　価　結　果　（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの設置者は、利用者の心が和らぐようなホームにしていきたいという思いが理念になり、また、利用者が安心して地域で生活できることを望んだ理念になっている。理念は玄関や事務所に掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はホーム独自の理念を理解し共有するために定期的に職員同士で唱和している。また、その理念の実践ができるように取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム設置の時から地域のごみ拾いやあいさつの充実を図ったり、ゲートボール場への訪問などを行ってきている。また、地域の行事への参加や小・中学校、保育所との交流など積極的な地域活動を実践している。その実践活動はホーム便りや写真集に掲載されている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価も含め評価の意義を理解した上で、自己評価を行っている。また、前回の評価を踏まえて事業所内で協議した会議録もあり、積極的な改善や取り組みができている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の指導により３か月に１回、運営推進会議を開いており、会議では家族代表や地域の方の参加の下、利用者のためのホーム作りができるようにしている。また、その議事録もある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に管理者が中心となって市町村や関係機関との連携に努めており、わからないことは聞く姿勢がつくられている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が組織してあり、定例の家族会ではホームの様子が報告され、家族会に来れない家族は管理者から電話等で報告している。また、来訪時にも管理者が窓口で利用者の様子を報告している。金銭管理は来訪時等に出納簿の確認をして家族の確認印も徴している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置してあるがこれまでに投函はない。また、家族や第三者からの意見や苦情等もこれまで一件もない。苦情体制表も玄関に掲示してある。来訪の家族に対してもコミュニケーションを十分に図りながらの対応ができている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が他の職員の勤務や業務に支障や負担のないような勤務シフトをつくり、記録等については管理者が時間を見ながら記録の時間を作り、職員にストレスが及ばない工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や内部研修の実施も日ごろからできており、その報告書も他の職員がいつでも見れるように研修時の資料も添付してある。また、その報告書を見た場合の他の職員のサインもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者への実習はこれまで試みてはいるが難しい状況である。しかし、交流や情報交換などを計画したり、他の同業者へのアプローチも積極的に実施できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に試験的な宿泊利用も実施しており、利用希望者が不安なく利用できるための工夫が実践されている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は忙しい中にも、漬物や梅干漬け、おやつ作りや創作活動を利用者と一緒に寄り添いながら実践しており、ホームのアルバムなどにもその様子が記されている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が散歩をしたい、あるいは墓参りをしたいなどの要望がある場合には、本人の気持ちを尊重して意向に沿えるように努力している。それは日誌や個人の記録台帳に記録されている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の主訴を尊重し、家族や全職員で会議の中で意見を出し合いながら介護計画を作成している。初回の介護計画作成のための会議録もあった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは３か月ごとにできており、その見直しの記録もある。しかし、介護計画変更時の会議録が残されていなかった。	○	介護計画に沿ったサービス実施の記録はあるので、介護計画を変更した際の会議録も残しておいたほうがよいと思われる。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの機能を活用した家族介護者教室などの実績はないが、介護の相談などの要望に対しては随時対応できている。また、緊急時のホームの利用や宿泊などについても、受け入れできる準備はできている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの母体である病院はすぐ近くにあり、利用者全員の掛かりつけ医となっているので、院長はじめ病院の対応は適切にされており、他科受診の際にも、ホームの職員による送迎や付き添いの支援ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの実践事例はないが、病院との医療連携の体制もできており、職員は常に学習会などを行い対応できるようにしている。また、終末時ケアの資料等マニュアルも準備してある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の戸は普段は閉めてあり、のれんをかけて中がのぞけない配慮がしてある。また、トイレは各居室ごとにありアコーディオンカーテンがしてある。トイレへの誘いなど職員は他の利用者に聞こえない声のトーンで声かけしている。また、個人の記録は事務所で厳密に管理されてあり、本棚などは布で覆ってある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は一人ひとりのんびりと自身のペースで生活し、職員はそのペースに合わせて、個人の散歩の要望などに対応している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片づけなどできる人の役割がある。また、食事の際には職員も同じ食事を取りながら世間話をしたり、目配り気配りのさりげない介助ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後からになっているが、利用者の希望に応じて夜間でも可能である。特に日の長い夏場には夜間入浴を実施することがある。		浴室内がやや狭く浴槽が深いので、特に歩行や移乗が困難な利用者の介助には十分気をつけながら介助してほしい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物や梅干、らっきょう漬けなどは利用者と職員が共同作業で行い、利用者の指導を受けながら職員が作業したり、ホールにはお手玉や遊びの道具がすぐ手の届くところにおいてあり、また、季節感のある行事もできている。このことは行事記録やアルバムに掲載されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は田園が広がっており、その周囲を職員といつでも希望があるときに散歩したり、外部の行事への外出、または買い物などへ出かけている。その様子は日誌やアルバムに記されている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけることなく、常に開放してある。また、非常口なども必要外の施錠などはしていない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回の防災訓練を実施し、地域への協力の呼びかけをしているが地域住民の訓練参加はない。また、防災訓練の計画書はあるが、実施後の報告書またはその記録がない。	○	災害対策は、地域住民への呼びかけにとどまらず訓練への参加や見学などをお願いしていくことが望まれる。また、訓練後の記録も残して、さらに防災の意識を高めてほしい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者や職員が利用者の嗜好を聞いて献立に取り入れている。また、隣接病院の栄養士にも指導を仰ぎながら、利用者一人ひとりに合った食事を提供している。献立の記録や食事チェック表の記録もある。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アプローチから玄関まで広々としており、季節の花が植栽されたプランターでにぎわっている。また、共用ホールやろうかの壁には、利用者や行事の写真が掲示されている。採光もよく、娯楽のための共有物等も整理整頓されており、居心地の良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ利用者の個性が出ており、家族の写真や絵画が壁に飾ってあったり、仏壇、使い慣れた家具なども持ち込まれている。また、時を知らせるための時計やカレンダーも見やすい場所にあった。利用者が生活しやすい工夫がなされている。		

※ ▒ は、重点項目。